

地域志向型人材育成プログラム

## 地域×大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト

離島・過疎地域の地域課題の解決策を考える。

「学生のアイデアを活用した『小さな拠点』づくり」の提案

平成 28 年度 COC+ 実践教育推進取組

# 活動報告書

地域志向型人材育成と他地域との連携による地域課題解決型の  
サービスラーニングプログラムの開発に向けて

実施日：第一部 2月 22日(水)～23日(木)

第二部 3月 7日(火)～10日(金)

第三部 3月 16日(木)

URL: <https://mgp14.jimdo.com/>

## 地域 × 大学 MGP 14

宮古島を元気にするプロジェクト



# はじめに

## 「地域 × 大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト」とは？

現在、琉球大学は、平成 27 年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択された「新たな地域社会を創造する『未来叶い（ミライカナイ）』プロジェクト」事業を推進しています。

「ひと・まち・しごと総合戦略」を推進する地方自治体とも協定を結び、各市町村における雇用創出・若者定着に関する目標を定めています。

宮古島市と結んだ協定の目標に、「学生のアイデアを活用した『小さな拠点』づくり」があります。今回の「MGP14」はそれに基づくプロジェクトであり、離島・過疎地域の地域課題の解決策を考えるのが目的です。

宮古島の友利地区は、「なりやまあやぐまつり」の開催をはじめ、エコハウスの設置、民泊事業等、昔からいろいろな地域活性化のための取り組みを行っています。しかしその一方で、現在、少子高齢化による人口減少や空家対策などの問題も浮上してきています。また、既存のエコハウスや公民館、3年後に閉校になる校舎の有効利用なども考えなければなりません。若者の地域定着、雇用創出等を含め、地域の更なる活性化を図るためにはどのような手段が考えられるか――。

本プロジェクトは三部構成です。14 人の参加学生が、第一部では宮古島・友利地区における小さな拠点づくりに関わる地域課題を現地で伺い、第二部では地域づくり先進県である島根県奥出雲町で行われている取り組みを視察。そして第三部では、再び宮古島に赴き、友利地区の地域課題を解決をめざし、新鮮な視点、柔軟な発想から生まれたアイデアを提案するプレゼンを実施しました。

地域課題解決への貢献がプロジェクトの目的ですが、その過程を通じて学生たちが様々なことを学び、知見を得、地域のことを深く考えられる人材として成長すること――それももちろん、このプロジェクトの大きな目標です。

### 地域 × 大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト

【MGP14】とは「宮古島（M）を元気（G）にするプロジェクト（P）の頭文字を取ったものである。参加人数 14 名を冠して、「MGP14」とした。宮古島と他地域をフィールドにして、地方創生、地域の活性化策を模索、またその作業を通じて、これからの地域再生を担える人材を育成するプログラムである。地域ニーズに沿って、教員と受け入れ地域とでプログラムを企画・実施する。

## 概要

取組名：地域 × 大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト  
主催：琉球大学地域連携推進機構  
(COC+ 事業：「新たな地域社会を創造する未来叶い（ミライカナイ）プロジェクト」)  
連携先：第一部及び第三部 宮古島市企画政策部 宮古島市城辺友利地区  
第二部 ふるさと島根定住財団  
実施地域：第一部及び第三部 宮古島市  
第二部 島根県仁多郡奥出雲町  
対象：琉球大学生  
参加人数：学生 14 名（引率教員 3 名）  
実施期間：第一部 2017 年 2 月 22 日（水）～2 月 23 日（木）1 泊 2 日  
第二部 2017 年 3 月 7 日（火）～3 月 10 日（金）3 泊 4 日  
第三部 2017 年 3 月 16 日（木）日帰り



はじめに ..... 1

## 体験を効果的に学びに 3

本プロジェクトで学生が身に付ける3つのこと ..... 4

本プロジェクトを効果的に学生の学びにつなげるために ..... 5

## 第一部 宮島市役所、友利地区を訪問 9

宮島市役所、友利地区の取り組みを調査 ..... 10

第一部の学びのポイント／学生の感想 ..... 13

## 第二部 島根県奥出雲町の取り組みを視察 19

奥出雲町の取り組みを視察し、地域づくりのヒントを学ぶ 20

活動報告 第1日目 3月 7日 (火) ..... 22

第1日目の学びのポイント／学生の感想 ..... 24

活動報告 第2日目 3月 8日 (水) ..... 25

第2日目の学びのポイント／学生の感想 ..... 27

活動報告 第3日目 3月 9日 (木) ..... 38

第3日目の学びのポイント／学生の感想 ..... 31

活動報告 第4日目 3月 10日 (金) ..... 32

学生の感想 ..... 33

## 第三部 体験で得た知見を基にいよいよ提案！

見た、聞いた、知った、体験して得た知見を提案へ ..... 36

学びのポイント／学生の感想 ..... 39

## アンケート結果と考察 41

## プロジェクトの成果 53

第三部プレゼン資料

・ Aチーム

・ Bチーム

・ Cチーム

振り返りシート

新聞報道記事

・ 山陰中央新報

・ 宮古新報

・ 宮古毎日新聞

---

地域×大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト

発行 琉球大学地域連携推進機構

発行日 2017年3月31日

住所 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話 098-895-8087

メール cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

URL <http://ryudaicoc.jim.u-ryukyu.ac.jp/cocplus/>





# を効果的に学びに

本プロジェクトに参加することで学生が身に付けられる「3つのこと」を設定。また、様々な「体験」が効果的に学びにつながっていくよう、プロジェクトを設計した。

---



## 本プロジェクトで 学生が身に付ける3つのこと

第一部から第三部までの本プロジェクトを通して、参加学生が身に付けることを3つ設定した。最後に、この「3つのこと」が身に付いたかどうかをアンケート調査で測定した。

※調査結果は P.41 参照

1

地域の課題解決に役立つ知識を増やし理解力を高める

宮古島市での「『小さな拠点』づくり」の取り組みに参加することで、離島・過疎地域の地域課題を、身近な問題、現実的な問題としてとらえ、考えることができるようになる。

2

各種取り組みを客観的に評価する力を付ける

島根県奥出雲町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」に参加し、地域づくり先進県における地域課題に対する取り組み事例を学ぶことを通して、地域課題への各種取り組みを地域外部からの視点で客観的に評価する力を身に付ける。

3

企画提案力を身に付ける

他地域での事例などを参考にして、宮古島市城辺友利地区の地域課題に対する解決提案をとりまとめ、プレゼン形式の報告を行うことで企画提案力を身に付ける。



# 本プロジェクトを効果的に 学生の学びにつながるために

学生と受け入れ地域との交流を円滑にし、効果的に学びにつなげることができるように、今回のプロジェクトでは段階ごとに様々な施策を導入した。これにより本プロジェクトが一過性のものとならないようにした。

## オリエンテーションの実施

### プロジェクトの目的を明確にし、皆で確実に共有

オリエンテーションは、2月15日（水）、16日（木）、17日（金）、20日（月）の計4回、304教室で行った。プロジェクトの内容や目的を明確に説明し、それを参加者がしっかりと共有するように徹底した。地域の活性化策の提案という目標の重要性と同時に、プロジェクトにおいて学生が何を学ぶべきかという点についても強調した。もちろん、学生同士のコミュニケーションの場ともなった。オリエンテーションでは、各地域の資料に加え、独自に制作した「しおり」を配布し、常にプロジェクト全体が俯瞰できるようにした。



写真左から、「しおり」「オリエンテーション会場内」「オリエンテーション進行中の様子」「ロゴが入った旗を持つ参加学生」「会場入口」

## 学生と地域の方とのコミュニケーションを促す

### 学生と地域の方との意見交換の場を数多く設定

学生と地域の方が直接対話したり意見交換ができる機会をできるだけ多く設定した。まず第一部の宮古島市と城辺友利地区では、座学式の研修、意見交換会、懇親会、そしてプレゼン発表における質疑応答などを実施。第二部の島根県奥出雲町では、座学式の研修や地域の取り組みの視察、他大学生との交流、懇親会を行ったのに加え、宿泊先等で地域の方の生活に触れながら地域の実態が学べるようにした。



写真左から、「第一部 宮古島市での研修」「第一部 友利地区での研修」「第一部 同地区での懇親会」「第二部 奥出雲町蔵屋地区での懇親会」「第三部 プレゼン」

## ワークショップの開催

### 2種類の作業を基に、体験したことを自分の言葉で表現

ワークショップには、個人とグループの2段階の作業を導入した。①一人でワークシートに記入し、自分の考えをまとめる。②グループで見たり聞いたりしたこと、感じたことを付箋紙に書いて模造紙に貼り出し、さまざまな意見を述べ合う。これにより思考力を高め、体験した内容を自分の言葉で表現する能力を養う。



写真左から、「ワークシート例」「第二部 振り返りのワークショップ」「第二部 同ワークショップ記念撮影」「第三部 プレゼン準備の様子」「同」





## 振り返りシートへの記入

### 深い学びにつなげる振り返りの時間

非日常体験に忙しい学生たちにとって「振り返りシート」への記入は面倒なものかもしれない。しかし、本プロジェクトで最も重視したのは、1日の研修が終了した後に「振り返りシート」による振り返りの時間を設定し、その日の記憶が鮮明なうちに体験で得た自分の考えを書いてもらい、より学びを深めることであった。これは事前に受け入れ地域にも伝え、必要な場合は追加情報をもらうなど、振り返りシート作成に協力して頂いた。先のワークショップと併せ、参加学生の主体的な学びの場を作り上げていった。



「振り返りシート」

各学生が記入した  
実際の振り返りシートは、  
P.53 を参照

## 名札を外さない

### 地域の方との円滑なコミュニケーションのために

名札は自己紹介をする時などに役立つ大切なコミュニケーションツール。学生は、漢字名とふりがな、学年などを印刷した名札を見やすい位置に常に付けるようにして、地域の方とコミュニケーションを図った。



「名札。教員の分も作成」

## 受け入れ地域との緊密な連携

### 地域と学生、双方のニーズを把握したプログラム構築

受け入れ地域との緊密な情報交換に務め、地域と学生、双方のニーズをしっかりと把握したプログラム構築を行った。例えば第二部では、「琉球大学+プログラム主催者+受け入れ地域担当者」の3者の連携を緊密に図り、3カ月程度の時間をかけて、地域の現実をいかに学生の学びにつなげるかについて意見を交換しながら体験プログラムを構築した。また、プログラムにおいては、学生が無理なく安全に、安心して参加できることにも留意した。事故や怪我の恐れがないようにプログラム内容を吟味するのはもちろんのこと、アレルギー情報など参加学生のプロフィールも把握し、受け入れ地域と調整を行った。



写真左から、「(公財)ふるさと島根定住財団来沖」「アレルギー情報などの個人情報の共有」「本プロジェクト内容の共有」「連日の Skype ミーティング」



## 第二部受け入れ団体の声

UI ターンの促進と県内定住を目指して3本の柱で事業を展開する（公財）ふるさと島根定住財団では、活力と魅力ある地域づくりの促進として「しまね田舎ツーリズム」という事業を行っている。これは地域の人々との交流を通し、島根県の自然、風土、歴史、文化、暮らし等に触れ、島根ならではの魅力を体験してもらうものである。もっとも、当初は学生の民泊の受け入れに、「事故やケガをしたらどうしよう」と不安を感じるなど、あまり乗り気ではない地域の方々もいらした。しかし、今回の3泊4日の学生受け入れを通し、地域ならではの体験の提供や学生との意見交換、交流を行うことで、生きがいや地域の魅力を再発見するなどやりがいを見出し、今後の民泊受け入れに向け体制整備を行うなどの動きが出始めた。学生の受け入れが地域やその地に住む人々にもたらした効果は大きく、今後も継続的な受け入れを行っていくと同時に、ご協力いただいた琉球大学の皆さんに感謝したい。

（公益財団法人ふるさと島根定住財団事務局次長 樋口和広 /  
主事 岸本佳美 / しまね田舎ツーリズムコーディネーター 山崎紀明）

## 学生の声

※原文ママ  
※他の学生のコメントはP.53の「振り返りシート」を参照

### ●参加学生男子

今回のプロジェクトに参加してみて地域づくりの大変さという事に気付かされました。自分が何かをすれば地域が変わるという事ではなくて地域住民が一体となって行わなければ意味がないです。島根に行って見て外から見た沖縄、宮古島というのを知り、宮古島の地域振興のヒントになりました。発表も好評を頂いたので自分の自信にもなり、また次回も参加したいなと感じました。

### ●参加学生女子

地域づくり、地域おこしについて、真剣に考えることができるよい機会だった。でも同時に、地域の方々はどう感じているのか、生活圏内に入り込むことのむずかしさも感じた。

### ●参加学生男子

地域について考えるということだけでなく、多くのことが勉強になりました。過疎化という問題は、今からの日本に切っても切り離せない問題です。その対策、受け入れ方を考えている人々と関わったことは、これからの人生で何かしら役に立つだろうと感じました。また、普段は関われない他学部の人や他県の人と関わったこともこのツアーに参加して良かったと思った点でした。

## 引率教員の声

このプロジェクトは正課外実習のため単位は与えられない。しかし学生からは、「単位関係ないです」「このプロジェクト楽しいから」という嬉しい声が集まった。今回、社会の現実を知ることが効果的に学びにつなげられるよう、数々の工夫を随所に凝らしたが、こうした声はその成果の現れともいえよう。工夫の1つに、「地域づくりとは」「地域活性化とは」など、巷で言われているような解説を学生に事前に与えずにプロジェクトをスタートさせたことが挙げられる。参加メンバーは心理学や農学、理学を学んでいる学生で、地域問題については初めての者ばかりだった。しかし、島根滞在二日目には、地域の人々と生活を一緒に体験する中から「地域に関わるとはどういうことか」への理解を深めていった。そして「今いる地域住民で何ができるのか」「誇りを持つことが大切なのは？」などといった感想が振り返りシートに登場するなど、自分なりの発見をし、課題解決へアイデアを芽生えさせていった。最後の宮古島での発表は、「真摯な提案」と評価され、それが学生たちの自信につながっていったようだ。今回の地域だけでなく自分の住む地域の問題にも目を向け始めている学生も少なくない。

（地域連携推進機構特任准教授 空閑睦子）







# 宮古島市役所、 友利地区を訪問

第一部では宮古島市を訪問。宮古島市から地域の現状や取り組みについて説明を受けるとともに、宮古島市城辺友利地区における具体的事例を調査した。

---



# 宮古島市役所、友利地区を訪問。 取り組みを調査

第一部では宮古島市を訪問し、宮古島市の担当者から地域の現状や課題解決への取り組みについて説明を受けるとともに、宮古島市城辺友利地区において実施される『「小さな拠点」づくり』について調査した。

実施日 2月22日(水)～23日(木)

## 第一部全体実施行程表

日にち・宿泊	時間	内容	担当・受入	場所	備考
第一部 【1日目】 2月22日(水)	9:30 10:30 11:25 12:00 13:00 14:30	那覇空港に集合 JTA557 便 宮古空港到着 レンタカー借受 <昼食> 宮古島市役所到着 概要説明 市内視察	琉大教員    宮古島市企画政策部	那覇空港国内線ビル3階    宮古島市役所 市内	航空券手配 レンタカー手配 宿泊申込み
※宿泊 @ 民宿「ぼんが家」 宮古島市城辺字友利 149-18 TEL (0980) 77-7691 FAX (0980) 77-7692	17:00 18:30	城辺友利地区到着 城辺友利地区意見交換会 交流会<夕食>	城辺友利地区自治会 役員、なりやまあやぐ 実行委員会、さるかの 里(民泊組織)等	城辺友利地区公民館(砂 川農村環境改善センタ ー)	
【2日目】 2月23日(木)	16:00 17:00 17:45	<朝食> 城辺友利地区視察  <昼食> 市内視察  レンタカー返却 宮古空港到着 JTA564 便 那覇空港到着 解散	琉大教員 宮古島市企画政策部 城辺友利地区	城辺友利地区	



到着初日、宮古空港到着ロビーにて学生のみで記念撮影。14名のメンバーのうち3名は調査などのため欠席

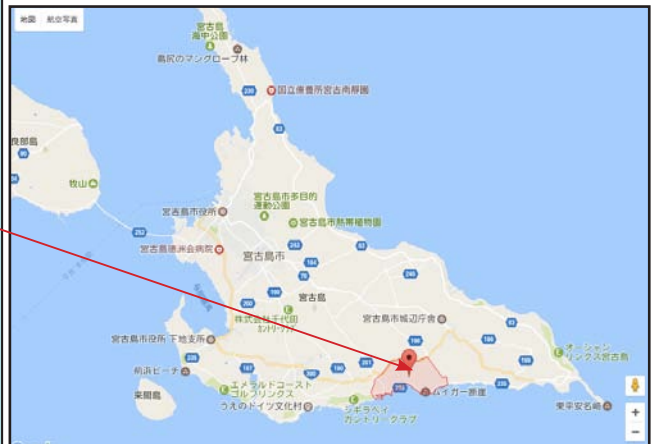


宮古島と友利地区の場所

宮古群島は、北東から南西へ弓状に連なる琉球弧（りゅうきゅうこ）のほぼ中間にあつて、北緯 24 度～ 25 度、東経 125 度～ 126 度を結ぶ網目の中に位置している。

沖縄本島（那覇市）の南西方およそ 300km、石垣島の東北東およそ 130km の距離にあり、宮古島までの交通手段は現在、飛行機のみとなる。

引用：一般社団法人宮古島観光協会公式 web サイト [http://www.miyako-guide.net/?page\\_id=27](http://www.miyako-guide.net/?page_id=27)





活動報告 1日目 2月22日(水)



## 集合

那覇空港に9時30分に集合。5分前には到着するようにオリエンテーションで周知。今回ばかりは「沖縄時間」は封印、適用外としたところ、集合時間の1時間前に到着する学生も現れる。



## 宮古空港到着後、昼食へ

宮古空港に到着後、教員2名がレンタカーを借りに行く。その間、到着ロビーにて宮古島出身の学生が、「宮古の注意事項」を伝える。昼食を「ファミリーレストラン ばっしらいん」にて取り、その後、宮古島市役所に向かう。

※「ばっしらいん」とは、宮古島の方言で「忘れられない」という意味。



## 宮古島市役所へ

宮古島市役所では、前原敦係長（企画制作部企画調整課地域活性化推進係）より、「宮古島の人口増加に向けた政策」について話を伺う。



## 市内視察

宮古島の説明の後は、市内散策へと出かける。小雨まじりで風も強い日だった。

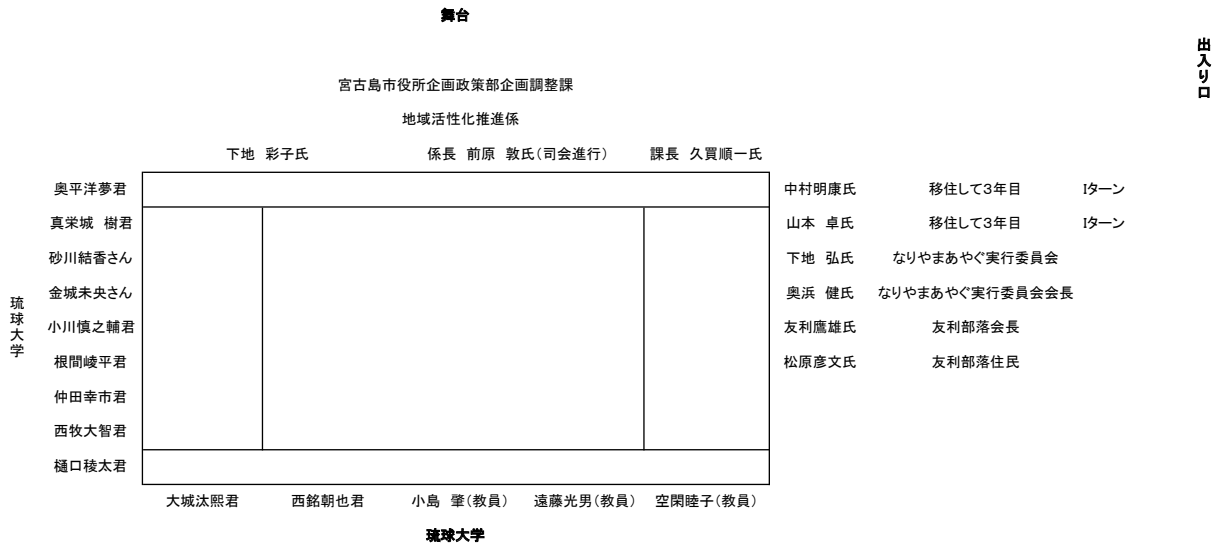




## 友利地区へ

今回のプロジェクトの目的は城辺友利地区における地域課題への解決策提案。まず友利地区の現状を把握するための打ち合わせに臨む。当日宿泊する「ばんが家」に荷物を置いた後、友利公民館に集合。前原係長の進行の下、久買順一課長（宮古島市役所企画制作部企画調整課）の挨拶、遠藤教授の挨拶、学生の自己紹介と進み、地区の現状説明を頂く。

### ◆参加者配置



## 交流会

地域の問題点や課題の説明を受けた後は、夕食を兼ねての交流会。みんなで準備をした。地区の青年会の代表者も2名合流。三線の調べが流れる中、宮古島の伝統的宴席法「おとおり」が披露された。どこまでも温かく接して下さる地域の方々のご厚意のもと、交流会は賑やかに和やかに進み、1日目は終了した。

第一部 1日目は終了、2日目へ





## 地区内視察

2日目は、強い雨が降ったり弱まったりと、あいにくの天気の中、友利地区の視察を開始した。歩いてフィールドワークができれば理想的ではあったが、歩き続けられるような雨ではなく、主に車での移動となった。



## 民泊事業の説明を受ける

「合同会社宮古島さるかの里」の責任者、松原敬子代表から、友利地区について簡単な説明を受けた後、農家の収入源にもなっている「民泊」事業について解説して頂く。

※「宮古島さるかの里」について（「さるかの里」HPより引用）

さるかの里は沖縄県の離島・宮古島で滞在型体験観光の民泊（民家体験）事業を実践しています。全国から修学旅行生や一般の方たちを受け入れて、農作業や島ならではの文化や生活を、宮古島の農家とのふれあいの中で体験し学ぶことができます。なにより人と人との知り合い、親しくなり、家族になる……ささやかな喜びですが、それが大きな宝になるのです。



## エコハウスを視察

「郊外型エコハウス」（通称エコハウス）を視察。伝統的な宮古島の建築手法を取り入れているこの「エコハウス」を、宿泊だけでなく、更に有効活用できないか模索する。

※「校外型エコハウス」について（「宮古島市」HPより抜粋）

所在地の友利地区は農業地区で、高齢者の多く住む地域であり、二世帯住宅のニーズの高い地域でもあります。農家・二世帯住宅の南島の伝統的住宅の視点で、母屋（半戶外空間を生かした伝統的間取り）と離れ（半戶外空間でよい距離感をたもつ）から成ります。



## 金志川豊見親屋敷跡遺跡を視察

友利地区において15～16世紀、地域の有力者であった、金志川豊見親（きんすきやーとうゆみゃ）の屋敷跡遺跡を訪れた。城もあったとされるこの屋敷跡は、案内板によれば1995年と2010年に発掘調査が行われ、国産陶磁器や動物の骨などが発掘されたようだ。



## 友利元島遺跡を視察

13世紀後半から18世紀後半にかけての集落遺跡「友利元島遺跡」を視察する。インギーマリンガーデンでは毎年10月上旬に特設会場が海上に設置され「なりやまあやぐまつり」が実施される。活発な活動を行っている「なりやまあやぐまつり」実行委員会は、友利の地域づくりの役割も担っている。

※「なりやまあやぐまつり」について（「(公財)日本観光振興協会」HPより抜粋）

宮古民謡の代表曲「なりやまあやぐ」を継承していくことを目的として発祥の地・友利で開催されるまつり。「なりやまあやぐ」とは、妻が夫を諭す教訓歌として宮古では誰もが知っている民謡です。海の中に特設に舞台が作られロウソクと水中照明が舞台を演出、幻想的な雰囲気の中で、美しい歌声が響き渡ります。



## 友利あま井を視察

その昔、女性たちが生活のための水を大変な苦勞で汲んでいたという自然洞窟の井泉「友利あま井（とものりあまがー）」を視察した。

※「友利あま井」について（「宮古島アプリ緩道」HPより抜粋）

城辺の字砂川と字友利の境界にあって、友利元島遺跡の西側に隣接する自然洞窟の井泉である。降り口から湧き口までの深さは約20m、自然洞窟井泉の規模としては大きく、水量も豊かである。1965年に城辺で上水道が普及する以前は、この井泉が飲料水を始め、生活を営む上の貴重な水資源であった。水を汲むのは婦女子の日課で、あま井に降りる石段の側面の岩には摩滅してしまったところが数箇所あり、当時の苦勞がしのばれる。



## 砂川中学校校舎を視察

3年後に閉校になる予定の中学校を視察。グループホームとしての利用など、閉校利用を模索している。卒業生にとっては母校がなくなること、地域住民にとっては閉校で子ども達の声がなくなり寂しくなることなどから、閉校に抵抗を示す人もおり、そのあたりの住民の合意形成も地域づくりには鍵である。

午前9時から2時間ほどかけて行った友利地区の視察は終了。再び宮古島市内の視察へ。



## 地下ダム資料館を視察

ダムマニアならずとも興味深い「目に見えないダム」宮古島市地下ダム。資料館内には立ち寄らず、地下ダム水位観測施設を見学した。





## 東平安名崎を視察

東平安名崎（ひがしへんなぎき）を訪れる。冷たい風に雨が混じり、かなり寒くなってくるが、視察は続ける。

※「東平安名崎」について（「宮古島市」HPより抜粋）

県内でも有数の景勝地で日本都市公園百選の認定を受ける。雄大な紺碧の海が2キロ続く。年中「天の梅群生落」（県の天然記念物）におおわれ、特にテッポウユリが咲く春先が美しい。北に東シナ海、南に太平洋を望むことができる。



## 昼食後、再び地域の学びへ

昼食は昨日と同じ「ばっしらいん」へ。



## 亀川菓子店

参加学生の一人のおじいちゃんとおばあちゃんが営む洋菓子店へ。開業60年近い老舗だ。たくさんのお菓子を手土産に持たせてくれた。

共に80歳を過ぎても今なお毎朝5時に起きて仕込みをしている。「かないません」と孫である学生もしみじみと言。

※宮古島と島根県をつなぐものの一つとして、亀川菓子店のかんを島根視察の際のお土産とした。P.23に関連記事を掲載

第一部終了



## 第一部の学びのポイント

### 地域を見て、聞いて、考える①

フィールドワークを行い、実際に見たり聞いたりすることで、読んだり聞いたりしただけでは分からない、地域の“現実”を肌で感じ、理解を深める。友利地区を地域の方にガイドして頂きながら歩くことで、地域への興味・関心を育成する。友利地区のいい部分だけでなく、地域に点在する空き家対策など問題点を率直に語ってもらうことで、問題意識を醸成・共有する。

### 歴史・文化を守る地域に学ぶ①

地域について考える手がかりの一つとして、歴史や文化に触れる。例えば、宮古民謡の代表曲である『なりやまあやぐ』を継承していくことを目的として毎年10月上旬になりやまあやぐの発祥の地・友利で開催される「なりやまあやぐまつり」。2016年時点で11回を数えた。このような地域の財産をどのように継承し生かしていくか、その意義や課題も含めて考え、また、地域づくりとも絡めて考察し、学びを豊かなものにする。



### 学生の感想

※「振り返りシート」より抜粋。原文ママ

#### ●法文学部2年男子

「小さな拠点」を利用して、地域の人々を“元気にさせる”というコンセプトも良いと思った。

#### ●法文学部3年女子

文化を活かした観光。新しいものばかりではなく、もともとあるものを活かすこと。民泊や自然を壊さない観光。

#### ●法文学部3年女子

少しずつできることから始める。地域の人々はもちろん、島外県外の人にも弱みを知ってもらって、頼れるところは頼る。

#### ●法文学部3年男子

地域の人と一緒に考えることが、空き家の使い方につながるのかなと思ったので、自分たちのアイデアだけでなく、地域の人と協力し合いながら考えることができればなあと思った。

#### ●法文学部3年男子

歴史やアイデンティティを持っているので、それを活用するべき。





## 島根県奥出雲町の 取り組みを視察

第二部では、公益財団法人ふるさと島根定住財団が実施する島根県奥出雲町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」に参加。宮古島市に対する提案へのヒントを学び取る。

---





# 奥出雲町の取り組みを視察し、 地域づくりのヒントを学ぶ

第二部では、公益財団法人ふるさと島根定住財団が実施する島根県奥出雲町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」に参加。地域づくり先進県である島根県における地域課題に対する取り組み事例を実際に体験することで、地域課題への取り組みを地域外部の視点で評価する力を得るとともに、宮古島市に対する提案へのヒントを学び取る。

実施日 3月7日(火)～3月10日(金)

## 第二部全体実施行程表

2017/3/7(火)		
時間	場所	内容
10:30-12:20	那覇⇒神戸	(移動)飛行機/SKY590
13:00	神戸⇒奥出雲	(移動)貸し切りバス/28人乗り ※バス内にて奥出雲町、たたらに関するDVD視聴
17:30	亀嵩温泉	到着⇒入浴
19:00	蔵屋公会堂	入村式&夕食 ※夕食準備等学生もお手伝い ・振り返りシート記入、集合写真撮影
21:00頃	閉会⇒各民泊先へ	★民泊先での体験など
2017/3/8(水)		
時間	場所	内容
9:00	たたらと刀剣館	(バス)8:00先生⇒8:20和夢⇒8:40蔵屋 館内見学
11:00	追谷集落集会所	そば打ち体験&昼食 ・追谷集落とたたらについて紹介 ・散策:鉄池、桂の木、棚田見学⇒蔵家のお話等
15:00	斐之上温泉	バス移動⇒入浴
16:30	蔵屋公会堂	集落体験(直会準備、餅準備等)
18:00	スタート予定	懇親会(直会体験) ・振り返りシート記入
21:00頃	閉会⇒各民泊先へ	★民泊先での体験など
2017/3/9(木)		
時間	場所	内容
9:00	伝統産業会館	(バス)8:00先生⇒8:20和夢⇒8:40蔵屋 奥出雲町の概要紹介、定住財団事業紹介など
10:00	高田みんなの学校	空き家活用事例紹介①
11:00	みんなの場所まつ	空き家活用事例紹介②
12:00頃	ピストロソラ	ランチ
13:00	かがり屋	空き家活用事例紹介③
14:00頃	多根自然博物館(6F)	2日間の気付きワークショップ ・振り返りシート記入(WSに向け1.2日目分返却)
15:30	佐白温泉	入浴
17:00	蔵屋公会堂	離村式&懇親会 ・餅つき体験 ・集合写真撮影
21:00頃	閉会⇒各民泊先へ	★民泊先片づけ等
2017/3/10(金)		
時間	場所	内容
6:30	奥出雲⇒神戸	(バス)5:40先生⇒6:00和夢⇒6:20蔵屋 (移動)貸し切りバス/28人乗り ★お見送り ・振り返りシート(バスまたは飛行機内にて)
12:15-14:35	神戸⇒那覇	(移動)飛行機/SKY590

### 「公益財団法人 ふるさと島根定住財団」とは

(公財)ふるさと島根定住財団は平成4年に設立し県内就職を促進するための雇用環境整備やUターンへの支援等を実施、平成8年度からは産業体験事業など、定住を促進するための先導的事業にも取り組んでいます。

平成15年度には「石見事務所」、16年度には若年者の就職を総合的メニューでサポートするワンストップサービスセンター「ジョブカフェしまね」を開設、17年度には、Uターン希望者に対する無料職業紹介事業を開始し、Uターン希望者と県内企業とのマッチングを行っています。

また、平成20年4月から、それまでの地域づくり支援事業に「島根ふれあい環境財団21」が実施していた社会貢献活動部門の事業を継承し、一体的に事業を実施しています。

新しい公益法人制度に対応し、平成23年4月に「公益財団法人」となりました。Uターンの促進と県内定住を目指して、①若年者を中心とした県内就職促進、②県外からのUターンの促進、③活力と魅力ある地域づくりの促進の3つに取り組んでいる。

ふるさと島根定住財団ウェブサイトより引用



### 「しまね田舎ツーリズム」とは

農山漁村は、自然の中に生きている「生命」、その恵みを頂く営みとしての「生産」、それらを楽しむ「生活」、この3つの「生」が混然一体に融合した大変意義深いところ。そこは、都市が見失った日本の伝統文化の源泉であり、豊かな自然や歴史、あるいは風土や人情が今なお残る、我が国にとって貴重な地域です。島根県が取り組んでいる「しまね田舎ツーリズム」は主として都市の住民の方々に、農山漁村の生活の体験や、民家等での宿泊を通じて、こうした本県の自然、風土、歴史、文化等に触れるとともに、地域の住民との交流を楽しんでもらおうという活動です。

「しまね田舎ツーリズム取組紹介」より引用



島根県と奥出雲町の場所

平成 17 年 3 月に旧仁多町と旧横田町の合併により誕生した奥出雲町は、島根県の東南端に位置し、中国山地の嶺を隔て広島県と鳥取県に接する、神話に名高い斐伊川の源流域にあります。

この奥出雲の地は、古事記、日本書紀の八岐大蛇（ヤマタノオロチ）退治や、素戔鳴尊（スサノオノミコト）が降臨したと伝えられる出雲神話発祥の地であり、古くから「たたら」製鉄で栄え、今でも世界で唯一、古来からの「たたら」操業を行い日本刀の原料となる「玉鋼（タマハガネ）」を生産しています。

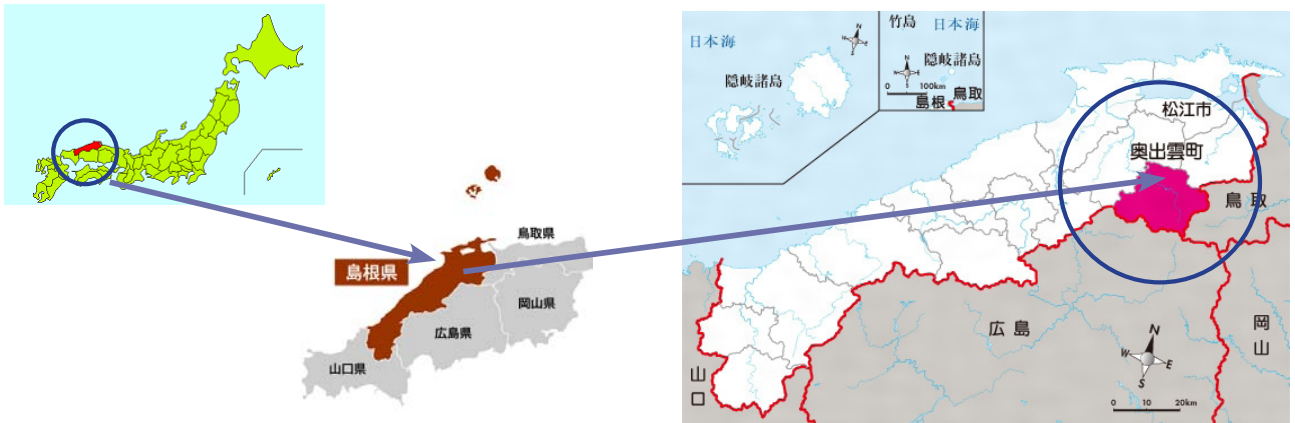
本町は、地域資源を活用した仁多米、仁多牛、奥出雲椎茸、奥出雲酒造、高糖度トマトなどの地域ブランド化による産業の振興をはじめ、町 100% 出資の第三セクター設立による雇用の創出、空き工場・空き家を活用した企業誘致や定住対策の促進、亀嵩温泉玉峰山荘、サイクリングターミナルなどの地域間交流の促進、また、県立自然公園で国指定天然記念物の鬼の舌震、日本一のトラストアーチ橋がある奥出雲おろちループ、比婆道後帝釈国定公園の船通山や、鉄の歴史を今に伝える絲原記念館、可部屋集成館などの恵まれた自然と豊富な観光資源を活かした観光の振興などを進めております。特に合併後は、地域間格差の是正と均衡ある発展を目指す中で、いち早く情報通信網の整備に着手、全町で各家庭まで光ファイバーを接続した全国最先端の FTTH 網が完成し、超高速インターネット、ケーブルテレビ、IP 電話の利用はもとより、新たにテレビ電話による独居老人宅の見守りや在宅医療、生活支援サービスの構築を進めており、生活基盤・道路網の整備と併せ、健全な財政運営に努めながら合併後の一体感の醸成、地域経済の活性化に取り組んでいるまちです。

引用：奥出雲町 HP <http://www.town.okuizumo.shimane.jp/admin/townpresentation/townpresentation010/post-267.html>

奥出雲町について

人口総数 14,674 名 男：7,082 人 女：7,592 人 世帯総数：4,891

(奥出雲町 HP：<http://www.town.okuizumo.shimane.jp/>)



本プロジェクトでは奥出雲町内の蔵屋集落（人口約 100 名）の民家に宿泊しながら地域づくりを視察した。





## 集合



那覇空港に9時00分に集合。神戸空港行きスカイマークに搭乗する。お昼ごはんを空港で買い飛行機の中かバスの中で食べるため、その購入時間を考えて早目の集合となった。

## 神戸空港に到着



神戸空港に到着するとバスの運転を担当する土江さんがお出迎え。MGP14のロゴを持って待っていてくれた。神戸空港の到着ロビーにはコンビニエンスストアがある。松江出身の土江さんは、「現地ではコンビニはすぐ近くにないので、買い物は今しておくといい」と、島根滞在のアドバイスをくださり、学生たちは慌てて買い物に走った。

## ワークショップ①



奥出雲町に向けて約4時間のバスの旅が始まった。バスの中では第一部の振り返りが行われ、またワークショップも開催し、忙しい4時間となる。

車窓は段々と山間部特有の景色に変わり、「どこへ連れて行かれるのだろう」という声が挙がる。加西サービスエリア(SA)では雪はなかったが、蒜山SAではすっかり雪景色。降り続く雪に、「雪を見たことがない」学生らは大喜び！

## 「綿密な事前準備が成功の秘訣」を合い言葉に打ち合わせを進める

2月2日(木)には、受け入れ先である「公益財団法人ふるさと島根定住財団」から担当者3名が来沖。挨拶も含めた打ち合わせの後、琉球大学キャンパスツアーを実施。大学本部棟の屋上からキャンパス全体を見渡してもらい、「風樹館」を見学後、琉陽橋を通り、図書館前で記念撮影。

更に、3月7日(火)からのツアーに向けて、中身の濃いツアー内容にするべく、双方の担当者が毎日のように連絡を取り合った。

この事前の綿密なやりとりが、プログラムの成否を決めるといっても過言ではない。



(公財)ふるさと島根定住財団の方々来沖された時の様子





## 亀嵩温泉玉峰山荘に到着

亀嵩温泉玉峰山荘に到着すると、玄関には横断幕が掲げられており、学生たちは嬉しいやら恥ずかしいやら。

長旅の疲れを温泉につかって落とし、いよいよ今回の視察の中心地である蔵屋地域へ向かう。

山荘の支配人はバスから見えなくなるまでずっと手を振ってくださった。



## 蔵屋公会堂にて入村式

ふすまを開けると蔵屋地区の方々全員総立ち、横断幕と拍手で迎えてくれた。

テーブルの上にはごちそうの数々。山陰沖で獲れた魚、のりまき、そして地域のおばちゃんの手作り漬物。これがなによりまたうまい。



## 入村式の後には各民泊先へ移動

民泊先は5軒（大田屋（1泊のみ）、東京屋（大田屋で宿泊した学生が2日目に移動）、和田農園、和夢、田楽荘）。学生たちはそれぞれの民泊先に移動する。一般民家から茅葺きの古民家まで、バリエーションに富んでいる。

普段はストーブや湯たんぼなどを使用しない古民家もあるが、今回は沖縄からの訪問ということで特別に暖かくしてもらったようだ。それでも、学生によると「寒かった」そうだ。



お土産と手紙

## 奥出雲町と沖縄をつなげるモノとコト①宮古島のお菓子

今回参加した学生の一人のおじいさんとおばあさんが、宮古島で60年、お菓子屋を営んでいる。そのお店の「かるかん」を島根の方々へのお土産として持参した。入村式では、その学生にこのお土産についても話しをしてもらった。また、お土産には、「このかるかんが宮古島と島根をつなげる架け橋の一つである」ことを綴った手紙を添えた。



## 第1日目の学びのポイント

### 宮古島市での学びを振り返ることで宮古島の課題を明らかにする

2月22日（水）～23日（木）に実施した第一部の宮古島での学びを振り返ることで、注意すべき課題や島根県で見るべきことを明らかにする。

### 地域を見て、聞いて、考える②

この日だけではないが、3泊4日を通して、「フィールドワークに参加し、身をもって体験し、見て、聞いて、考える」ことで、「過疎地域」「高齢化」「地域活性化」「地域づくり」などの意味を実際的に学ぶ。



#### 学生の感想 ※原文ママ

#### 3月7日（火）の振り返りシートから

##### ●法文学部4年女子

バスの中でのワークショップでみんなの意見を聞いて、宮古島の課題が明らかになり、今回のツアーで特に注目するべき点があった。

奥出雲の方々との交流で自分のふるさとを紹介すること、現地の方々の話を聞くことの大切さを知ることができた。分からないことが多く、失礼なことも言ってしまったかもしれない。なるべく失礼がないよう、でも分からない部分は質問していきたい。出雲弁が初日から聞いたことがとても嬉しかった！

##### ●法文学部3年女子

温かい人々でとても嬉しかった。温かく迎えてくれる感じが友利地区の方たちに似ていると感じた。地域についての様々なお話を聞いて楽しかった。沖縄との違いが面白かった。バスでのワークでみんなのアイデアが聞いてよかった。

##### ●法文学部3年男子

今まで行ったことのない地方の田舎の様子をみて感動した。雪や温泉に入ってみて沖縄との違いを確認して、普段とは違った様子を楽しむことができた。最初、山道を走っている時に、どこに連れて行かれるんだろうと思ったが、実際に場所に着いたら人も温かくて、盛り上がることもできた。自然が豊かで空気がおいしかった。



## 集合



朝起きると昨日よりさらに雪は積もり、降り続けている。

教員の宿泊施設は蔵屋地区から車で25分ほどの「恐竜博物館」。移動のバスはここから民泊先の一つ「和夢」を経て、蔵屋公民館へ。他の宿泊先からの学生も次々に集合。

この日、最初に行ったのは、「長靴に履き替える」こと。「靴の中が冷たいなんて初めてだ」という声も聞こえた。

## たたらと刀剣館



たたら製鉄と奥出雲町の関わりを学ぶ。

※「たたらと刀剣館」について（「奥出雲ごち」HPより抜粋）

日本で唯一、奥出雲の地で操業を続ける「日刀保たたら」で生産される和鋼「玉鋼」を用いて造られる「日本美術刀剣」について展示解説を行っている施設です。

## 追谷集落集会所でそば打ち体験



追谷集落集会所では、奥出雲そばの手打ち体験。みな上手にできた。「そば打ち」に新たな才能を見出した学生も！

## 追谷集落とたたらに関わりを学ぶ



そば打ちの後は自分で打ったそばに舌鼓。そして、追谷集落とたたら製鉄との関わりを学ぶため周辺の視察に向かう。

そば打ち体験とフィールドワークでは、奥出雲町のケーブルテレビ番組「ジョーホー奥出雲」の取材を受けた。





## 斐之上温泉

島根県は日本有数の良質の温泉地でもある。ドライヤーなども完備されていることから、毎日の入浴は、温泉施設を利用した。



## 集落体験

蔵屋公民館に戻り、集落体験。男子は自ら薪割りした薪でご飯を炊き、女子は島根のごちそう「にしめ」を、地域の方に教わりながら準備。

男子は寒さをものともせず、3時間ほどひたすら薪を割り続ける。この体験は翌日の餅つきにも生かされたようだ。



一方、女子は島根のごちそう「にしめ」を、地域の方から教わりながら準備。



## 直会体験

近所の3つの集落の方々も合流し、「直会」が開始された。終了後は、それぞれの民泊先へ移動。

※「直会」とは、神祭終了後、神饌（しんせん）や神酒（みき）のおろし物を参加者が分かち飲食する行事。



## 第2日目の学びのポイント

### 歴史・文化を守る地域に学ぶ②

たたら製鉄との関わりを通して、地域に住む人々が先人たちが積み重ねてきた知恵をどのように活用してきたのか、またそれらはどのように地域性や文化・習俗に織り込まれているのかを、宮古島や自分が関わってきた地域と比較しながら考える。複数の地域を比較して、共通する点、異なる点の両方を見つけ出すのが大事なポイントである。

### 多様性への気づきにつなげる

参加学生は、島根県を訪れるのは全員初めてということであった。これだけでも新しい経験ではあるが、奥出雲町蔵屋地区の日常生活に触れ、地域の方々と対話し、これまで自分を取り囲んできたもの以外の様々なことに関わることで、多くの発見をし、多様性への気づきを得る機会とする。



### 学生の感想 ※原文ママ

### 3月8日(水)の振り返りシートから

#### ●法文学部4年男子

島根の伝統を感じました。たたら製鉄について調べ、沖縄とは異なった文化を知ることができ、非常に良い思い出となった。そばを上手く作ることができなかったのが悔しかった。雪景色が美しい。

#### ●法文学部1年男子

奥出雲町とたたらが関連していることは前情報で知ってはいましたが、それがどう関係しているのか詳細を知ることができました。また薪割りなど、地域の人からしたら当たり前の作業でも自分達、外部の人間からしたらとても楽しく感じられたのは、何か、地域振興のヒントになるかもしれないと感じました。

#### ●法文学部3年男子

たたら製鉄技法が伝統的なものを受け継いでいて現代技術に頼ることだけが良いことではないと感じました。また、材料となる木炭を採取するために伐採した跡地を水田に利用して環境破壊だけで終わらないところがすごいなと思いました。そば作りは楽しく、自分の新たな才能を見つけました。



## 集合

この日も朝から雪が舞う。蔵屋公民館に集合。少しでも時間があると雪とたわむれる学生たち。遠藤先生が作った雪だるまを囲んで記念撮影も。石垣出身の学生は雪国スタイルがすっかり堂に入るなど、適応力の高さを見せた。



## 伝統産業会館で座学

主催であるふるさと島根定住財団の活動内容、また、奥出雲町の定住施策についての説明を伺う。この日から、「地元学」を援用し、グループに分かれ、グループ内で各自の役割を決めて活動。このことを主催側にも伝え、協力して頂いた。



## 「高田みんなの学校」視察

空き家となっていた古民家を改築して図書館にしている「高田みんなの学校」を視察。

※「高田みんなの学校」について（「高田みんなの学校」HPより抜粋）  
高田みんなの学校は、島根県奥出雲町の小さな集落「高田地区」にあります。今は時代が大きく変わる時。答えがあった時代から、答えがないために自ら課題を設定しなくてはならない時代変わっていきます。私たちは学びによって多様な価値観と触れることを通じて、この小さな社会から生き心地のよい社会をつくっていきます。



## 「みんなの場所まつ」を視察

奥出雲町の有名な菓子店である「松葉屋」の店舗だった建物を、「誰もが寄れて楽しめるみんなの場所」をコンセプトに高校生などの居場所スペースとして開放している「みんなの場所まつ」を視察した。





## 昼食

UI ターンで奥出雲に戻られた夫婦が経営する「ビストロソラ」でランチ。



## 「かがり屋」を視察

元ガソリンスタンドだった場所をゲストハウスに改築中の「かがり屋」を視察。ここから、島根大学、島根県立大学、鳥取大学の学生も合流し、交流を深める。

※「かがり屋」について（「TALK LIVE @TOKYO」チラシより抜粋）

自然・人・食・空間を体感するゲストハウス。名前の由来でもある「かがり火」のように宿泊した方が心に火を点灯し、生きていることの証を感じる場所、戻りたくなる場所を目指す。



## ワークショップ②： 多根自然博物館にて

多根自然博物館（恐竜博物館）にて「2日間の気付きのワークショップ」が奥出雲町地域おこし協力隊2名によって行われた。「かがり屋」から合流した島根大学、島根県立大学、鳥取大学の学生らも一緒に学びを深めた。

この時に、地元紙「山陰中央新報」（P.53 参照）の取材を受ける。



## 長者の湯

多根自然博物館から徒歩1分程度のところにある「長者の湯」に行く。



## 離村式&懇親会

離村式の準備も皆で行う。この日は、20年の伝統を持つ「蔵屋杵餅会」の主催で餅つき。皆、初めての餅つき体験に大喜び。懇親会では、沖縄の伝統菓子であるサーターアンダギーとちんぴん（ポーポー）を学生が作り、蔵屋地区の皆さんに食べてもらう。最後に寄せ書きを渡して、名残を惜しみながら閉会した。

## 最後は全員で記念撮影



左上から時計回りに、「ポーポーを作っている様子。合流した島根大学、鳥取大学、島根県立大学の学生、地域の子どもらも参加して皆で作る」、「サーターアンダギーを作っている学生ら」、「寄せ書き」

## 奥出雲町と沖縄をつなげるモノとコト②沖縄のお菓子と寄せ書き

滞在中は島根県奥出雲町蔵屋地区に伝わる伝統料理で温かいおもてなしを受けた。そのお礼の意味も込めて、学生たちは、沖縄の伝統菓子であるサーターアンダギーとちんぴん（ポーポー）の粉を持参してその場で菓子を作り、地区の皆さんにふるまった。

また形に残るお礼として色紙を用意。参加学生が地区の皆さんに向けて一言ずつ寄せ書きし、最後に渡した。



## 第3日目の学びのポイント

### 多様な文化や価値を理解し、自分の考えを整理して伝える

島根大学、島根県立大学、鳥取大学の学生らに合流してもらい、本学の学生と一緒にワークショップを行った。生活地域・環境の異なる同年代との交流を通じ、文化や価値観の多様性をより深く理解する力を身に付けることが目標。また、意見交換を通じて、自らが感じ、考えたことをうまく伝える能力を磨くことも重要なポイントである。

### 自分の強みを地域の人々に認めてもらい、小さな成功体験を作る

参加学生は、様々な状況で自分の持つ技能や才能などを発揮する。それを地域の方々に認めてもらうことで、自分への自信へとつなげる。一つひとつは小さなものであっても、こうした小さな成功体験を築き、積み重ねていくことが、本プロジェクトに限らず重要な成長源となる。



#### 学生の感想 ※原文ママ

#### 3月9日(木)の振り返りシートから

##### ●法文学部4年女子

今日は空き家を活用している方の所へ視察に行きました。様々な形で活用していたのですが、みなさん人のつながりを大切にされていて、そのつながりを深く、太くしたいという想いは共通していると思いました。また、奥出雲は個人の方々の想いや活動も大きいのですが、行政の方々の協力もとてもあって、二方の協力があってこそ、できる地域おこしだと感じました。

##### ●法文学部2年男子

空き家活用の事例として4軒ほど回ったけれど、それぞれ特徴があって参考になった。資金を集めるのに、クラウドファンディングがあって、SNSを活用して情報を発信することが必要。またかがり屋でも人集めにSNSを活用しており、情報発信がキーワードになるんじゃないかと思った。

##### ●法文学部2年男子

今日のプログラムはより課題に沿った内容で宮古にも活かせることが多くあった。特に空き家を図書館や誰でも入れることができるというように作り変えており、とても学びになった。

##### ●法文学部3年女子

改めて、地域の人々が元気があって地域を良くしようと活発に活動されていて、素晴らしいなと感じました。田舎には視点を変えれば「何でもある」という発想が、何でも通じるものなのかと思います。あきらめることは簡単だけど、チャレンジする勇気を持つことが現状を良くするキーワードだと思いました。

##### ●法文学部3年女子

地域の子たちが本にふれるきっかけをつくる。勉強する場所をつくるなど、子ども達のためを思って、空き家を活用していることが、いいと思った。地域起こし協力隊の人達がエネルギッシュでとてもいいと思った。鳥取、島根の学生とも交流することができてとてもよかった。ワークショップもみんなの考えがきけてよかった。もちつきも楽しかった。





## 神戸空港に向けて出発

出発日。バスが待つ蔵屋公民館の前には早朝から地域の方々が集まり、見送ってくださった。別れが惜しまれ、涙が出た。

奥出雲町の皆さん、蔵屋地区の皆さん、追谷集落の皆さん、民泊（大田屋、東京屋、和田農園、和夢、田楽荘）の皆さん、本当にありがとうございました。



## 奥出雲町と沖縄をつなげる モノとコト③思いがけず現れた学生たちの強み

### 小さな成功体験の積み重ねときっかけの重要性

3泊4日の最終日。それまでお見えにならなかった地域の方々も見送りにいらっしやった。知人が直会や懇親会などの準備の時に学生と触れ合った話を聞いて興味を持った方などだ。また、高齢の方を自宅まで手を携えて夜道を送って行った学生がおり、そのことがあつという間に集落内に広まり、この行動に感動し感謝してお見送りに来てくださった方も。当事者である学生の「いやあ、オレ、おじいちゃんよりおばあちゃん好きだから」と照れながら話していた姿が印象的だった。

また、今回の「民泊」は、蔵屋地区でも試行的な取り組みでもあった。中心となっている人から、「これまで田舎ツアー（注：田舎ツーリズム）とかに関心なかった層が、やっと君たちのしようとしていることが分かったと歩み寄られた」という話を聞き、地域が動くためには「小さな成功体験の積み重ね」と「きっかけ」が非常に重要であることを改めて感じている。



冷え込みが厳しい早朝、まだ薄暗いうちから集まってくださった住民の方々。足腰が弱く、立っているのは難しいからと、ビールケースに腰かけて学生達の様子に目を細めている方もいらっしやった

### 出会いで成長し、別れで強くなる

3泊4日の滞在初日から最終日まで、民泊先の1つである「大田屋」のお子さん2人もお父さんとお母さん、おばあちゃんと一緒にずっと来てくれていた。

学生らと仲良くなった2人。女の子の方はお見送り当日の朝、早起きしてお礼にイラストを描いて学生達に渡していた。一方、男の子の方とはいうと、前日まで学生と大はしゃぎをしていたが、最終日当日は笑顔も言葉もなかった。

写真右上から時計回りに、「笑顔の学生を横にどこまでも笑顔がない男の子」、「早起きして描いたイラストを渡す女の子」、「上手に描けているイラスト」





## 学生の感想

※原文ママ

## 第二部を終了した3月10日（金）の振り返りシートから

### ●法文学部4年男子

今回島根県奥出雲町の旅を通して、田舎の素晴らしさを実感することができた。温泉、雪、囲炉裏など普段経験することのない様々なものに触れることで新しい感覚を覚え、さらに新しいものを自分の中に取り入れていきたいと思った。また、空き家を図書館やゲストハウスに生まれ変わらす発想も非常に魅力的であり、空き家の可能性は無限大だと感じた。今回の視察を参考に良いアイデアを提供していきたいと思う。奥出雲の方々はみな親切で、とても充実した4日間を過ごすことができた。食事を用意してくれたり、様々なことを教えてくれたりと、健康的な生活の中で自分を成長させてくれたことに感謝したい。また今後は地元のみならずお世話になった奥出雲街にも何か良いものを提供してこのつながりを大切にしたいと思う。

### ●法文学部1年男子

今回の3泊4日の行程を終えて、感じたことは、空き家・地域おこしの知識が増えたことはもちろんなのですが、人生を経ていく中で必要になる考え方も学べたということです。田舎に住んでいる（元々から）だけでなく、東京などから移住した人など自分とは全く違う環境に身を置いている人の話を聞くのは新鮮でした。地域おこしの視察で印象に残ったのは高田みんなの学校です。高田みんなの学校の会計（の担当の方）の話の中の、無理せずにやっていくことが大事という文言が町おこしをやっている意見として大事だと感じたからです。友利地区の活性化に島根で学んだことを取り入れていきますが、地域の人が負担に思わないことを前提に案を出して推敲していきたいと考えました。

### ●法文学部3年男子

島根県で3泊4日を通して感じた事は地域住民の方々が地域振興にとっても熱心だなと思いました。自分の地域を自分達で盛り上げようという考え方はとても素晴らしいなと感動しました。また、自分達の地域資源を活かしての取組は勉強になり、ぜひ宮古島に帰ってからどんな事したいのか詳しく説明したいです。田舎だから夢がないのではなく、将来の日本をみたとときの先進地域として夢をもたせることができる。何事にもプラスに考えチャレンジしていく姿勢というのはすごく心を打たれます。本当に快く私達を受け入れてくれた奥出雲の方々にはとても感謝します。次は沖縄に来てもらう番です。これからは沖縄と島根の交流をもっと広げてお互いに刺激し合っていく必要があると感じました。

### ●法文学部3年女子

奥出雲の方達は、伝統ぶんか、歴史、自然を大切にし、それらをこれからも受け継いでいこうという感じがすごく伝わったし、田舎だから何もない、ではなく、ないものは自分達の力でどうにかしようという前向きな考えを持っている人が多いな、と思いました。また、民泊を受け入れた方をはじめ、地域の皆様がよそ者の私達を温かく迎え入れてくれて、奥出雲の方達との御縁を大切にし、島根県、奥出雲の良さを沖縄の人達にも知ってもらいたいと思ったし、宮古島を元気にするのと同時に奥出雲にももっと元気になってもらいたいです。空き家に関しても資金が少ない中、地域の人々の手伝い、寄付といった力で地域のために活用されている所が素晴らしいな、と思いました。過疎化が進んでいる地域は子どもが少なく、学校もほとんどクラス替えが行われなく価値観の同質化、可能性を閉ざす傾向があり、若いうちから周りの大人や多様な価値観と触れ合う機会が重要だと感じたし、そういう機会をつくってあげることが、子どもや若者を地域に根付かせることにつながるのかな、と思いました。また、地域の良さはどんどんPRした方が良かったし、弱さも周りに知ってもらい改善点を地域一丸となって考えていくことが重要だな、と感じました。最初から完成形を目指すハードルが高いし、行動に移す勇気、チャレンジしていく勇気を持つことが地域おこしで重要なところだと思います。

第二部終了





# 体験で得た知見を基に いよいよ提案!

第三部では、島根県で見聞した内容をふまえ、宮古島市城辺友利地区の地域課題に対する解決提案をとりまとめた。そして宮古島に出向き、その提案をプレゼンした。

---





# 見た、聞いた、知った、 体験して得た知見を提案へ

第三部では、島根県で見聞した内容を踏まえ、宮古島市城辺友利地区の地域課題に対する解決提案をとりまとめた。そして宮古島に出向き、その提案をプレゼンした。

実施日 3月16日(木)

第三部全体実施行程表

3月16日(木)		
時間	内容	備考
9:30	那覇空港に集合 ※航空券、行程表、名札渡し	
10:30	JTA557 便	
11:20	宮古空港到着(航空券半券回収) レンタカー借り受け	
12:00	<昼食>	ランチ場所：海鮮悟空 所在地：〒906-0013 沖縄県宮古島市平良字下里 246 バイナガマビーチマンション 2F 電話：0980-72-0897
13:30	宮古島市中央公民館到着	
14:00	宮古島市中央公民館にてプレゼン発表会開始(式次第別紙)	「遠藤」先生のお名前が13名で予約済み。
17:00	発表会終了(予定時刻より早く終了する場合あり)	
17:30	レンタカー返却	渡久山さん、砂川さんは中央公民館に直行。
18:55	JTA572 便 ※飛行機内でプロジェクト全体の振り返りシート記入	※宮古島市中央公民館 所在地：〒906-0013 沖縄県宮古島市平良下里 315 電話：0980-73-1123
19:40	那覇空港到着 ※航空券半券、名札、振り返りシート回収後、解散	



## 集合

那覇空港に9時30分に集合。



## 宮古空港に到着

教員3名はレンタカーを借り受けに行く。学生はその間宮古空港で待機。その後、ランチ組と会場設営組に分かれる。



## 集中してプレゼン準備に励む3日間

3月13日(月)～15日(水)の3日間、16日(木)のプレゼンに向けてグループごとの準備作業を行った。連日、朝9時から続々と学生たちが集まってきた……。部屋の隅に置かれた机の上には、遠藤先生から毎日お菓子と飲み物の差し入れがあったがあつという間になくなる。島根の視察から戻った翌日(11日土曜日)に自主的に集まりアウトラインをまとめたグループも！



プレゼン準備作業の様子



プレゼン準備作業室となった304講義室



プレスト用ワークシートを埋めていく学生ら



各グループで熱い議論が行われた



遠藤先生からの山のような差し入れ



プレゼンシート作成用に配布した資料の数々



## プレゼン開始

14時からいよいよプレゼン開始。14名が3グループに分かれ、それぞれアイデアを発表した。

宮古新報、宮古毎日新聞、宮古テレビなど、報道関係者も取材に訪れ、会場は盛り上がった。

また、宮古島出身の参加学生の親御さんからシフォンケーキとお菓子の差し入れを頂く。

各グループ共にギリギリまでリハーサルをしたり、パワポの修正をしていたが、無事にプレゼンを終えた。

学生たちからのユニークなアイデアに対し、宮古島市役所、また、友利地区の方々からは、概ね高い評価を頂いた。学生のアイデアに、「無理だ」「できない」というのではなく、「これらのアイデアをどうすればできるのか、考えたい」という前向きな意見を頂いた。



平日のお忙しい中、報告会に足を運んでくださった友利地区の皆さん、宮古島市役所の皆さん、本当にありがとうございました！

※報道された当日の様子は、P.53 参照

各グループの  
実際のプレゼン資料は、  
P.53 を参照

## 最後は全員で記念撮影





## 学びのポイント

### 自分の立ち位置を確認し、自分自身の変容に気付く

課題解決に向けた提案をまとめるのが本プロジェクトの一つのゴールである。しかし、そのような目に見えるもの以外にも、本プロジェクトでは、学生たちが自分自身の変容に気付くことを重視してきた。そのために、各段階で「振り返り」作業を行った。この振り返りを通して自分を見つめ直すことで考え方の幅を広げ、またそれぞれの考え方を参加学生同士で共有することにより、「地域とは何か」という大きな課題を更に深く考えることができるようになる。



#### 学生の感想

※原文ママ

#### 第三部を終了した3月16日(木)の振り返りシートから

##### ●参加学生男子

今回のプロジェクトに参加してみて地域づくりの大変さという事に気付かされました。自分が何かをすれば地域が変わるという事ではなくて地域住民が一体となって行わなければ意味がないです。島根に行ってみて外から見た沖縄、宮古島というのを知り、宮古島の地域振興のヒントになりました。発表も好評を頂いたので自分の自信にもなり、また次回も参加したいと感じました。

##### ●参加学生男子

なかなかできない体験などを通して、都会だけでない田舎の良さや、これからに必要な課題について考えることができた。地域を活性化していくには、体験などを通して、目で耳で肌でその地域を感じることが大切で、その地域の人と一緒に問題解決に向けて考えることが、活性化への第一歩であると感じた。また、椅子に座ってただ調べたことを学ぶだけではなく、体験などのフィールドワークを通して学ぶことが、自分の身に一番学習できるなと思った。様々な地域の異なった文化、考え方に触れることで自分の今までの地域や考えが変化するいいきっかけとなった。

##### ●参加学生女子

「地域活性化＝観光地化」と以前までは思っていたのですが、このプロジェクトに参加して、地域の活性化は地域住民が自分たちの力で地域を盛り上げて、地域を楽しむことが大事なんだな、と感じました。なので、必ずしも観光客を集めて経済をまわすだけでなく、地域住民が暮らしやすいシステムづくりが重要だと思いました。また、地域の弱点を把握し、頼るところは頼る、協力してもらおう、といったように、人の力が重要な役割を担っているということを改めて学びました。

##### ●参加学生男子

今回の反省としては島根のことをもっと詳しく知ることが出来ず質問に答えきれなかった点が多々あった、次回から理解をもっと深めて取り組みたい。また宮古の人が何を求めているか理解が必要だと感じた。こうしたプロジェクトに参加できて成長につながったし、地域の課題も実感でき、自分にもできることはないかと考える良い機会になりました。





# アンケート結果と考察



本プロジェクトの内容を評価するために、参加者がどのような感想を持ったか等について、プロジェクト終了直後にアンケート調査を行った。



# アンケート結果と考察

本プロジェクトの内容を評価するために、参加者がどのような感想を持ったか等について行ったアンケート調査の結果と考察をまとめた。

※記入された「振り返りアンケート」は、P.53 を参照

## プロジェクト後の「振り返りアンケート」の目的

本プロジェクトの内容を評価するために、参加者がどのような感想を持ったか、期待に沿ったものであったか、効果を感じたか等について、プロジェクト終了直後にアンケート調査を行った。アンケートでは、当日の内容の評価に加えて、今後のプロジェクト内容の方向性を検討する際の資料とするために、今後の希望、改善点などについても尋ねた。

設問は全部で4問。うち2問がスケール尺度を用いて、回答者が自分の気持ちに最も当てはまるものを選択する形式。2問中に全部で9つの評価項目を設けた。残りの2問は自由回答形式である。

なるべく自由に、感じたままの意見を述べてもらうために、性別以外の個人プロフィールは無記名とした。

次ページ以降に、アンケート結果に基づく考察と、各設問への回答結果をまとめている。

回答者は14名。うち男性10名、女性4名である。

## 「振り返りアンケート」記入用紙

地域×大学  
MGP14  
MAGNET

**振り返りアンケート**

「地域×大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト」の参加お疲れ様でした。全行程が終了しました。さて最後に本プロジェクトについての印象を教えてください。

建次コミュニケーションバス (RC) 事業本部

1. 今回のプロジェクトについて、次の形容詞のどちらにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ 自分の気持ちに一番近い形容詞に、1行に1つずつ○を付けてください。

A: 興味深かった	5	4	3	2	1	退屈した
B: やりがいがあった	5	4	3	2	1	やりがいなかった
C: 自信が持てた	5	4	3	2	1	自信が持てなかった
D: 参加してよかった	5	4	3	2	1	参加したことを後悔した

2. 次の意見をどの程度支持しますか？ 自分の気持ちに一番近いものを選んでください。

「このようなプロジェクトを今後も続けて欲しい」  
: ①とてもそう思う ②そう思う ③思わない ④まったく思わない

「同級生や後輩、友人に勧めたい」  
: ①とてもそう思う ②そう思う ③思わない ④まったく思わない

「本プロジェクトでめざした学生が身につける3つのことについて、それぞれ、理解が深まったと思いますか？」

その1 (宮古島市での「小さな拠点」づくり)の取り組みに参加することで、**離島・過疎地域の地域課題を考慮する**  
: ①とてもそう思う ②そう思う ③思わない ④まったく思わない

その2 (黒根県黒川町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」への参加体験を通して、地域課題への取り組みを地域外部の視点で評価することができるほか、地域づくり先進県における地域課題に対する取り組み事例を学ぶことができる)  
: ①とてもそう思う ②そう思う ③思わない ④まったく思わない

その3 (他地域での事例などを参考に、宮古島山城辺り地区の地域課題に対する解決提案をとりまとめ、プレゼン形式の報告を行うことで企画提案力を身につける)  
: ①とてもそう思う ②そう思う ③思わない ④まったく思わない

→裏面もあります。

「振り返りアンケート」1ページ目

3. 全行程を終え、今回のプロジェクトに参加して、感じたこと気付いたこと、自分の学びとなったこと、成長したことを記入してください。

4. 本プロジェクトの内容について、こうした方がいいと思うアイデアを書いてください。

5. あなた自身について、あてはまる番号に○を付けてください。  
性別 1. 男 2. 女

以上

「振り返りアンケート」2ページ目



# 参加してよかった！ ほぼ全員が高評価

※5番（最肯定評価）が93%、4番（肯定評価）をが7%であったので、概ね100%の満足度といってよいだろう。

## ■ アンケート結果を振り返って（結果概要）

プロジェクト内容に関する感想では、全般的に高評価を得る結果となった。設問1のA「興味深かった」、B「やりがいがあった」、D「参加してよかった」のスケール評価では、すべての参加者が5番もしくは4番を選択（肯定的意見）している。特に、A「興味深かった」、D「参加してよかった」の2つのスケール評価においては、それぞれ86%、93%が、5番（最肯定評価）を選択している。

設問1のC「自信が持てた」かどうかを尋ねた項目では、5番および4番の肯定的意見が合わせて86%であり、7%が中間評価（3番）、また、7%が2番のやや否定的評価となっている。大半の学生が自信を持てたと自己評価する一方で、更なる勉学・調査の必要性を感じている学生もいと受け取れる。

設問2の、「このようなプロジェクトを今後も続けて欲しい」「同級生や後輩、友人に勧めたい」の2つの項目においても、すべての参加者が、「とてもそう思う」もしくは「そう思う」と回答した（いずれも「とてもそう思う」が64%、「そう思う」が36%）。参加した学生たちは、今回のプロジェクトの有意義性を認め、これからも続けていくべきであると認識していることが分かった。

## 学生が身につける 「3つのこと」に関して、 参加学生から肯定的評価

設問2の後半では、「本プロジェクトでめざした学生が身につける3つのことについて、それぞれ、理解が深まったと思いますか」と、以下、3つの具体的な事柄について尋ねた。

その1：宮古島市での「『小さな拠点』づくり」の取り組みに参加することで、離島・過疎地域の地域課題を考える。

その2：島根県奥出雲町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」への参加体験を通して、地域課題への取り組みを地域外部の視点で評価することができるほか、地域づくり先進県における地域課題に対する取り組み事例を学ぶことができる。

その3：他地域での事例などを参考にして、宮古島市城辺友利地区の地域課題に対する解決提案をとりまとめ、プレゼン形式の報告を行うことで企画提案力を身につける。

これらの項目について、すべての学生から、「とてもそう思う」あるいは「そう思う」という回答が得られた。本プログラムを学生が有効に利用した証左と考えられよう。





# 机上の理論だけでなく、 体験し実践することの 重要さが再認識される！

前述のスケール評価の次に尋ねた、自由回答形式の設問3、設問4では、多くの学生から、今回のプロジェクトの有用性や各個人にとってどのような発見があったかなどに関して、非常に興味深い意見が多出している。

「全行程を終え、今回のプロジェクトに参加して、感じたこと、気付いたこと、自分の学びとなったこと、成長したこと」を聞いた問3において目立った意見の一つが、フィールドワークを行い実際に身をもって体験することの重要性への気付きである。例えば、「これまで教科書で“過疎”というものを学んできたが、実際にフィールドワークで目の当たりにすると学びが身になっていく」「椅子に座ってただ調べたことを学ぶだけではなく、体験などのフィールドワークを通して学ぶことが、一番学習になる」「地元の人と関わることでその良さなどを多く知ることができて貴重な体験ができた」「いろいろな人、考え方に触れられた」「地域の人々の困った声を直に聞くことができた」といった感想が挙がった。机上の理論だけでなく、体験し実践することの重要性が再認識された結果となっている。

また、「次回から理解をもっと深めて取り組みたい」「来年もぜひ参加したい」「また次回も参加したいなど感じた」など、継続的に取り組んでいきたいという声も多数あった。加えて、「活性化がすべてではない」「地域づくりの大変さに気付いた」「地域住民が一体となって行わなければ意味がない」「様々な地域の異なった文化、考え方に触れることで自分の今までの地域や考えが変化するいいきっかけとなった」「見えなかった部分が少しは見えたような気がした」「これまで『地域活性化＝観光地化』と思っていたが、地域活性化は地域住民が自分たちの力で地域を盛り上げて、地域を楽しむことが大事だと感じた。必ずしも観光客を集めて経済を回すだけでなく、地域住民が暮らしやすいシステムづくりが重要だと思った」など、参加したほぼすべての学生が自分なりの何らかの新しい発見をし、既存の価値観に囚われない実際的で有用な視点を身に付け、問題意識を新たにしている様子がうかがえた。

## 地域問題への取り組みに対する 学生たちの強い向上心に 応えることが課題

### 課題

本プロジェクトに関する改善アイデアを聞いた問4では、「もっと日にち（時間）をかける」「プレゼンの準備期間がもっとほしかった」「事前学習でいろいろと知っておくべき」などが挙がった。また、「宮古、島根ともに地域の学生との意見交換の場があればもっと良かったのでは」「他学部（の学生）を交えるともっと多様な意見が聞けるかもしれない」といった、ユニークな提案もあった。いずれの回答も、地域問題への取り組みに対する学生たちの強い向上心が汲み取れる結果となっている。そしてこれらはもちろん、今後の事業展開に大いに参考となると考えられるものばかりである。

次ページ以降に、集計結果の詳細を掲載している。

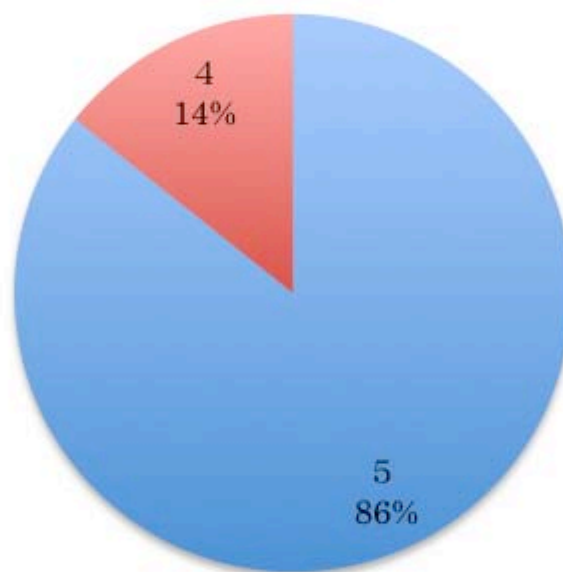


## ■ 各質問の結果

問1：今回のプロジェクトについて、次の形容詞のどちらにどのぐらい近い印象を持ちましたか？  
自分の気持ちに一番近い番号に、1行に1つずつ○を付けてください。

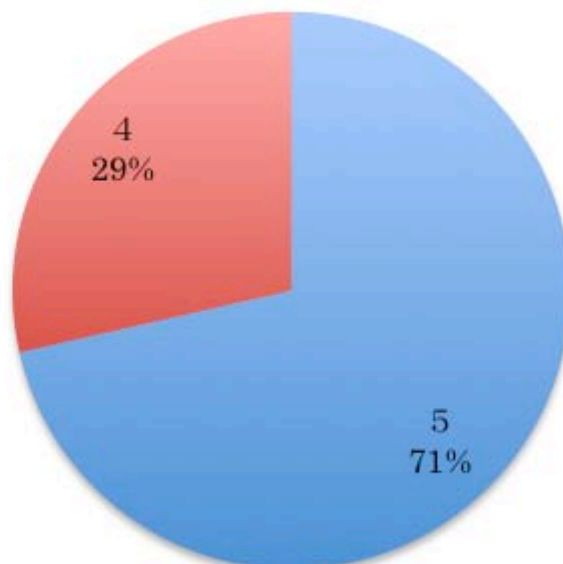
<今回のプロジェクトについて興味深かったか退屈したか>

A： 興味深かった      5    4    3    2    1      退屈した



<今回のプロジェクトについてやりがいがあったかなかったか>

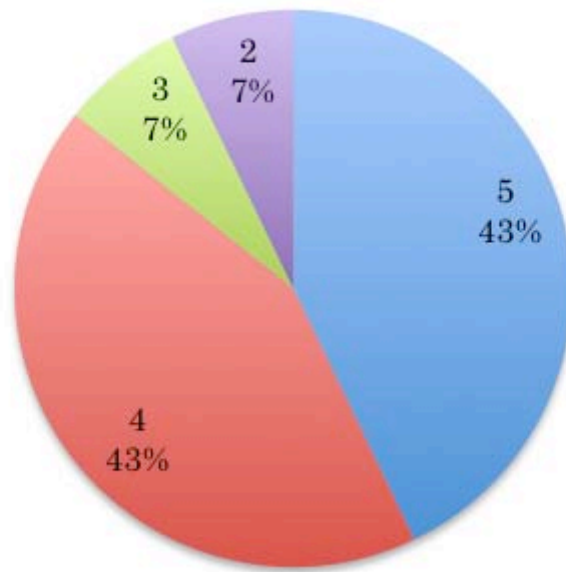
B： やりがいがあった    5    4    3    2    1    やりがいがなかった





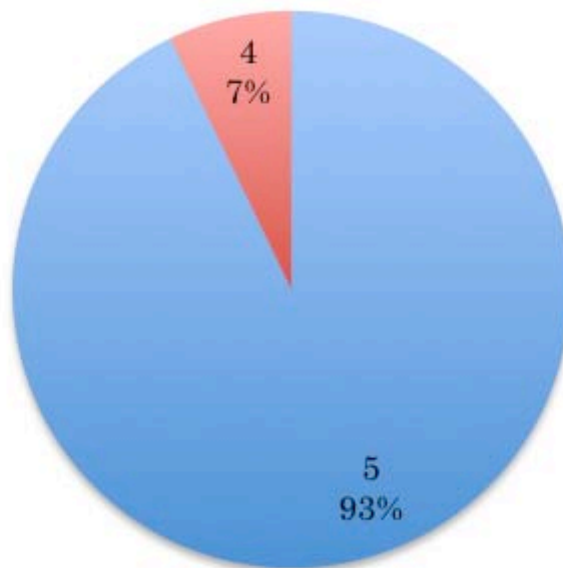
<今回のプロジェクトに参加して自信が持てたか>

C： 自信が持てた 5 4 3 2 1 自信が持てなかった



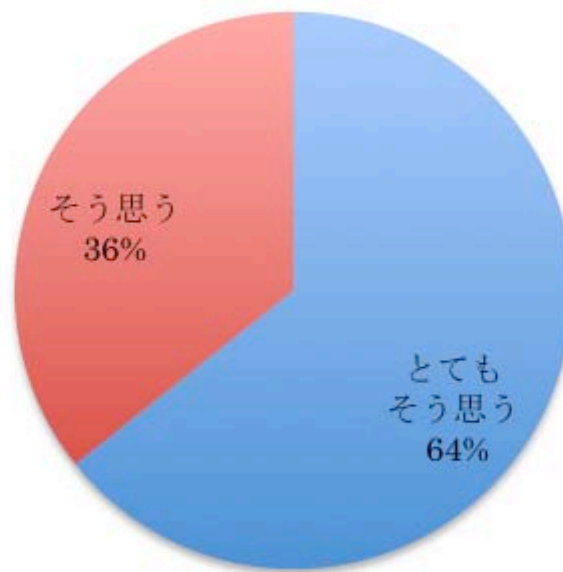
<今回のプロジェクトに参加してよかった>

D： 参加してよかった 5 4 3 2 1 参加したことを後悔した

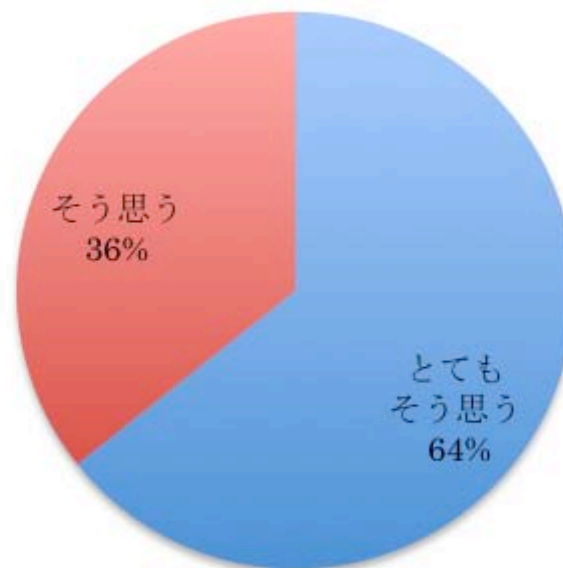




問2：次の意見をどの程度支持しますか？ 自分の気持ちに一番近いものを選んでください。  
「このようなプロジェクトを今後も続けて欲しい」  
(4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない)



「同級生や後輩、友人に勧めたい」  
(4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない)



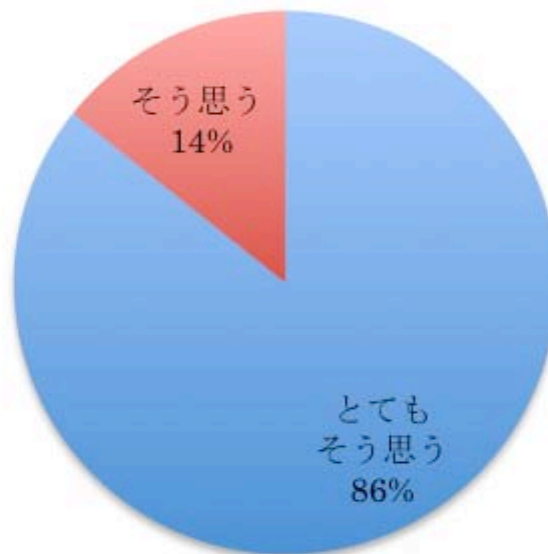




「本プロジェクトでめざした学生が身につける3つのことについて、それぞれ、理解が深まったと思いますか」

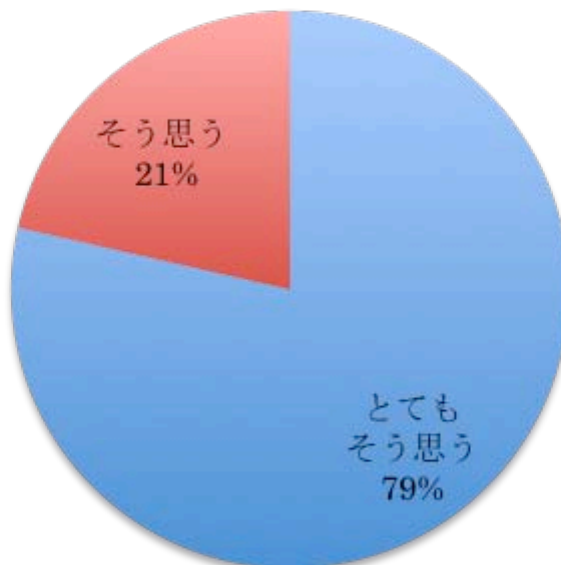
その1（宮古島市での『小さな拠点』づくり」の取り組みに参加することで、離島・過疎地域の地域課題を考える）

（4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない）



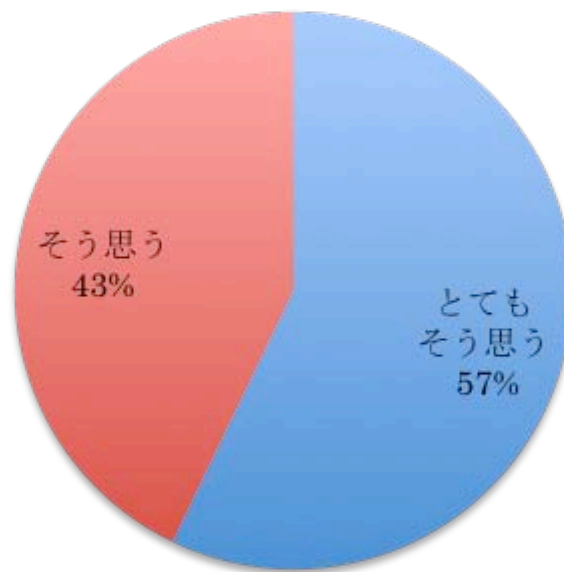
その2（島根県奥出雲町での「しまね田舎ツーリズムモニターツアー」への参加体験を通して、地域課題への取り組みを地域外部の視点で評価することができるほか、地域づくり先進県における地域課題に対する取り組み事例を学ぶことができる）

（4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない）





その3（他地域での事例などを参考にして、宮古島市城辺友利地区の地域課題に対する解決提案をとりまとめ、プレゼン形式の報告を行うことで企画提案力を身につける）  
（4：とてもそう思う 3：そう思う 2：思わない 1：まったく思わない）



問2：全行程を終え、今回のプロジェクトに参加して、感じたこと気付いたこと、自分の学びとなったこと、成長したことを記入してください。（原文ママ）

ID 1 今回の反省としては島根のことをもっと詳しく知ることが出来ず質問に答えきれなかった点が多々あった、次回から理解をもっと深めて取り組みたい。また宮古の人が何を求めているか理解が必要だと感じた。こうしたプロジェクトに参加できて成長につながったし、地域の課題も実感でき、自分にもできることはないかと考える良い機会になりました。

ID 2 今回のプロジェクトで、同じ沖縄でも自分が知らない問題がたくさんあるんだと感ずることができました。このプロジェクトで人間関係の大切さ、琉球大学に対する信頼度を学びました。来年もぜひ参加していきたいです。参加して良かったです。

ID 3 今まで全く知らない土地に行ったことが無かったが、今回のプロジェクトを通していろんな人、考え方に触れられた。また学んだことを地元にも活かしたい。

ID 4 いなかの良さ。活性化がすべてではない。人と人との交流によってあたたかさを知った。仲間との信頼関係。

ID 5 地域の人々の困った声というものを直に聞くことができた。これまで教科書で“過疎”というものを学んできたが、実際にフィールドワークのようにして目の当たりにすると学びが身になっていく感覚を持てた。

ID 6 今回のプロジェクトに参加してみて地域づくりの大変さという事に気付かされました。自分が何かをすれば地域が変わるという事ではなくて地域住民が一体となって行わなければ意味がないです。島根に行って見て外から見た沖縄、宮古島というのを知り、宮古島の地域振興のヒントになりました。発表も好評を頂いたので自分の自信にもなり、また次回も参加したいなと感じました。

ID 7 今回のプロジェクトでは、宮古の空き家問題を島根での具体例を参考にして考える機会となった。貴重な体験が出来て良かった。



ID 8 なかなかできない体験などを通して、都会だけでない田舎の良さや、これからに必要な課題について考えることができた。地域を活性化していくには、体験などを通して、目で耳で肌でその地域を感じる事が大切で、その地域の人と一緒に問題解決に向けて考えることが、活性化への第一歩であると感じた。また、椅子に座ってただ調べたことを学ぶだけではなく、体験などのフィールドワークを通して学ぶことが、自分の身に一番学習できるなと思った。様々な地域の異なった文化、考え方に触れることで自分の今までの地域に対する考えが変化するいいきっかけとなった。

ID 9 地域について考えるということだけでなく、多くのことが勉強になりました。過疎化という問題は、今からの日本に切っても切り離せない問題です。その対策、受け入れ方を考えている人々と関わったことは、これからの人生で何かしら役に立つだろうと感じました。また、普段は関われない他学部の人や他県の人と関わったこともこのツアーに参加して良かったと思った点でした。

ID 10 どう提案すれば正解であるのか分からなかったけど、自分なりにしっかりと考えて発表できたと思う。今まで以上に地元宮古島に関わり、見えなかった部分が少しは見えたような気がした。良い部分もたくさんあるが、同様に課題も多く残っているため、これで終わりではなく今後も自分なりに考えていきたいと思う。島根との関わりも大切にし、今後とも絆を深めていけたらいいと感じた。

ID 11 これほど地域おこしに向き合ったことはなかったのでプロジェクトに参加することで、どうしたら地域は活性するのか、と普段は考えないことを考えさせられたり、他の人の意見を聞いたり、とても良い機会でした。将来公務員になりたいくて、空き家問題など地域政策に関するプロジェクトだと思って参加したのですが、ドンピシャでした。また、こういったプロジェクトがあったら参加したいです。

ID 12 地域づくり、地域おこしについて、真剣に考えることができるよい機会だった。でも同時に、地域の方々はどう感じているのか、生活圏内に入り込むことのむずかしさも感じた。

ID 13 「地域活性化＝観光地化」と以前までは思っていたが、このプロジェクトに参加して、地域の活性化は地域住民が自分たちの力で地域を盛り上げて、地域を楽しむことが大事なんだな、と感じました。なので、必ずしも観光客を集めて経済をまわすだけでなく、地域住民が暮らしやすい、システムづくりが重要だと思いました。また、地域の弱点を把握し、頼るところは頼る、協力してもらおう、といったように、人の力が重要な役割を担っているということを改めて学びました。

ID 14 自分の知っている地域が問題を抱えていることに気付くことができた。全然知らない地域に行くことで、色々新鮮だった。その地元の人と関わることでその良さとかたくさん知ることができて貴重な体験ができた。

問4：本プロジェクトの内容について、こうした方がいいと思うアイデアを書いてください。（原文ママ）

ID 1 もっと日にちをかける（時間）。

ID 2 学年ごとに同じ人数が欲しかった。

ID 4 体験しに行った地域の事前学習でいろいろと知っておくべき。

ID 5 宮古島友利地区での視察をもっとしっかりとしたかった。

ID 6 もっと過疎地域、その地域で取り組んでいる事例について現地に行って学びたい。

ID 8 短期的なプロジェクトだけでなく、長期的に学生が考えたアイデアを実行できる場も設けると学生の今後の活動や地域の人のためにもなるのではと思った。自分たちの考えを実行できる機会の提供とサポートもプロジェクトに含んでほしい。

ID 10 先生方に頼りすぎた部分があって、知識が足りない部分が多かった。

ID 11 もう少し他学部を交えれば、もっと多様な意見が聞けるのかな、と思いました。

ID 12 最終報告会で、一番感じたことですが、長期的に続けた方がいいプログラムだと思いました。

ID 13 宮古、島根ともに地域の学生との意見交換の場があればもっと良かったのかなと、思いました。

ID 14 プレゼンの準備期間がもっとほしかったです。

## 謝辞

「地域×大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト」の実施にあたり、ご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

※本報告書の文責は、すべて、琉球大学地域連携推進機構生涯学習推進部門の空閑にある。

## 受け入れ先地域及び受け入れ関係機関等 ※順不同

### 第一部、第三部

- ・宮古島市役所
- ・なりやまあやぐ実行委員会
- ・城辺友利地区の皆様
- ・宮古島さるかの里

### 第二部

- ・公益財団法人ふるさと島根定住財団
- ・奥出雲町役場
- ・蔵屋集落の皆様
- ・蔵屋杵餅会
- ・大田屋
- ・東京屋
- ・和田農園
- ・和夢（しまね田舎ツーリズム登録施設）
- ・囲炉裏サロン田楽荘（しまね田舎ツーリズム登録施設）
- ・追谷集落の皆様
- ・奥出雲 たたらと刀剣館
- ・高田みんなの学校
- ・みんなの場所まつ
- ・奥出雲 GUEST HOUSE かがり屋
- ・奥出雲多根自然博物館
- ・日本旅行松江支店

## 参考ウェブサイト

### 【第一部・第三部】

- ・社団法人宮古島観光協会 <http://www.miyako-guide.net/>
- ・宮古島市 <http://www.city.miyakojima.lg.jp/>
- ・宮古島さるかの里 <http://www.ggt-sarukanokai.jp/>
- ・宮古島市教育委員会公認歴史文化観光ロードアプリサイト <https://miyakojimabunkazai.jp>

### 【第二部】

- ・奥出雲町 <http://www.town.okuizumo.shimane.jp/>
- ・ふるさと島根定住財団 <http://www.teiju.or.jp/>
- ・しまね田舎ツーリズムポータルサイト <http://www.oideyo-shimane.jp/>
- ・たたらと刀剣館 <https://www.okuizumogokochi.jp/96>（奥出雲ごっこ）
- ・高田みんなの学校 <https://takatagakko.jimdo.com/>



## 事業・実施体制

遠藤光男（琉球大学地域連携推進機構・RCC 事業本部長・教授）  
小島 肇（琉球大学地域連携推進機構・特命准教授）  
空閑睦子（琉球大学地域連携推進機構・特命准教授）  
大城光雄（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課地域連携推進係長）  
渡部沙世吏（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課事務補佐員）



# プロジェクトの成果

参加学生がプロジェクトの中で適宜ワークショップや振り返り等を行い、仲間や地域の方々との一体感や連帯感を深めた。それらの具体的成果をここにまとめる。

## 第三部プレゼン資料

- ・ Aチーム
- ・ Bチーム
- ・ Cチーム

## 振り返りシート

## 新聞報道記事

- ・ 山陰中央新報
- ・ 宮古新報
- ・ 宮古毎日新聞